

紀伊・房総

くろーお物語

◇1◇

読者の皆様、お久し  
ぶりです。2017年  
6月まで、毎日新聞和  
歌山版の連載「熊野古

道みくさ記」でお世話になりました熱田親恵です。このたび、またご縁をいただいて、再度連載させていただることになりました。

國神社を案内されて以来、温めてきたテーマです。神社の鳥居と手水鉢(すいばち)にある「奉獻上 在関東 上総国御宿浦、岩船浦 寅延元歳」などといった文字が刻まれており、江戸時代中期、1718年ごろの房総半島における紀州漁民の存在を知つたからです。実は私の生まれ故郷は旧上総国、千葉県市原市

出ざるを得ない環境に  
ありました。当時、綿栽培振興のために魚肥としての干鰯の生産が時代の要請であり、イワシの豊富な漁場を求めての旅漁でした。湯浅には栖原角兵衛という漁業を営んだ商人があり、千葉の富津や銚子から樺太まで、漁場の開拓に奔走したといふ活躍ぶりを聞き、すっかり紀州漁民のファンになってしまいまし

た。

この釣りの仕掛けは先祖が紀州人から教わったもの」と聞き、紀州漁民の活躍に興味を持ったといいます。まさに私の思いの大軒轅でした。この本をヒントにして、現地踏査などや文献・資料調査などを重ねるうちに、紀州漁民の活躍が徐々に明らかになってきました。



## 紀州漁民開拓の町

のいすみ市岬町で、  
た。

### 紀州漁民の足跡を求

が故郷の太東岬に立つと、北方向に九十九

部のいすみ市岬町で、房総半島太東岬の近くです。これはこのままでしておけないと思うようになり、日を改めて湯浅町教育委員会を訪問し、教育長に対応いただきました。ちょうど町史の漁業部門を編さん中だったこともあり、知らぬ知識が次から次へと示され、圧倒されました。

た。が故郷の太東岬に立つと、北方向に九十九里浜と銚子市、南方面には八幡岬のいすみ市大原、その奥にかすかに御宿町を見ました。これらの町は皆、紀州漁民によつて開拓されたようです。くろしおがつなぐ紀州と千葉・房総の昔と今をたどつてみたく、連載を決意しました。お付き

湯浅は農業地が少なく漁業、それも旅漁に

え、同県鴨川市に移住 合いいただければ幸い  
し、土地の人から「う です。

## 房総半島・太東岬に立つて

絵と文・熱田親憲  
題字・熱田秦華